

# JSL カリキュラム 6 年社会科学学習指導案

〇〇市立〇〇小学校

## 1 単元名「源頼朝と鎌倉幕府」

## 2 対象

### (1) 子どもの実態

- ・出身国： 中華人民共和国
- ・母語： 中国語
- ・滞日歴： 1年4か月
- ・就学年月： 1年4か月

### (2) 子どもの現在の学習力（レディネス）

#### 〈 日本語の力 〉

#### ① 聞く力・話す力

日常会話はほぼ身についている。教師の指示は、理解して活動に入れるが、友達の様子を見ながら活動していることが多い。知らない単語やわからない単語を聞くとすぐに持参している中和電子辞書で調べている。他の児童の前で、朝のスピーチや本の紹介などをするとき、事前に児童が紙に書き、日本語指導加配教員が添削をして練習をしてから行っている。

#### ② 読む力

音読み・訓読みの使い訳が難しく、漢字にルビ打ちをしてから音読をしている。また、長文の音読は理解できないので、短く区切って音読している。国語科の読解問題では、3年生以上の問題であればほぼ解答ができる。しかし、接続詞の選択はまだ難しいようである。わからない言葉は持参している中和電子辞書を使って調べているが「混んでいて」などと活用している言葉を「混む」という形に戻すことが難しい時もある。

#### ③ 書く力

平仮名・カタカナは確実に書くことができる。一日感想も、短い時間に考えをまとめて書こうとしている。漢字は使用頻度が高い漢字であれば書ける。時々、中国で使われる漢字を書いてしまうことがある。

#### 〈 教科の知識・スキル 〉

出身国の歴史については、王朝名が少し言える程度で、ほとんど知識はない。日本の歴史については、中国との関わりも多いため、楽しみながら学んでいる。「挙兵」などの言葉は漢字から意味をとることができるが、読めないことが多い。聞き慣れない熟語や表現があると、授業に集中できないことがある。

既習であれば、歴史上の人物の写真や絵から何時代のどんな人物で、何を建てたかなどを説明することができる。

### (3) 教材観

本単元は、鎌倉幕府は土地をなかだちにした強い主従関係と新しい政治の仕組みをつくり、貴族に代わって、武士を中心とする世の中の基礎を固めたことを理解させることが主なねらいである。

既習の貴族の暮らしや政治と比較しながら、鎌倉武士の力の基盤と気質を意識しながら学習を進めていく必要がある。そして、土地の安堵と忠誠という「ご恩と奉公」の強い主従関係によって武士の力を結集していった源頼朝や北条氏を中心として幕府の存在に気づかせ、その歴史的な位置づけや果たした役割について考えさせていくことが大切な単元である。

### (4) 外国人児童に対する指導方法

#### 〈 日本語における指導方法 〉

本読みや国語科の読解問題を学級での宿題とは別に日本語指導加配教員が課題として出している。社会科は毎時間、国語科は必要に応じて別室個別指導を行っている。社会科では、人物カードを作り、学んだ内容を定着させるとともに、教科書の内容を要約させる力を育てている。国語科では、接続語カードを使って短文作りをし、接続語の使いわけを定着させている。

#### 〈 社会科における指導方法 〉

社会科では別室個別指導を行っている。在籍学級の担当教員との連携をこまめにとり、学習の進捗や児童の様子などの情報交換をしている。

児童には、読めない漢字にはルビを打たせ、わからない言葉には説明を加えながら指導している。また、人物名や歴史用語などは何度も唱えるなどして慣れさせるように指導している。さらに、写真や図、表を使って視覚的に理解できるようにして、簡単な言葉を使ってゆっくり説明している。しかし、中学へ進学してから教科書の言葉が既習にも関わらず、わからない、読めないという状況にならないためにも、授業の最後には教科書の言葉に戻してあげるようにしている。

本単元では、既習である平安時代の貴族の生活と鎌倉時代の武士の生活が比べられるように、絵や図、写真を提示しノートやワークシートにまとめさせる。また、元寇の時には、児童の出身国の歴史になるので世界地図を提示しながら、関心を持たせるようにする。

## 3 単元目標

- 源平の戦いや鎌倉幕府の始まり、元との戦い、室町文化に関心をもち、このころ武士による政治が始まったことや、京都の室町に幕府が置かれたころに室町文化が生まれたことが理解できるようにするとともに、今日の生活文化に直結する要素をもつ室町文化に親しもうとする心情を育てる。
- 年表や文章資料、イラスト、写真などの資料を効果的に活用して、源平の戦いや鎌倉幕府の始まり、元との戦い、室町文化について具体的に調べ、調べたことを目的に応じた方法でノートやレポートにまとめる力を育てるとともに、源頼朝などの人物の業績や室町文化が我が国の国家・社会の発展に果たした役割を考える力を育てる

## 4 評価規準

- 【関心・意欲・態度】 源頼朝が平氏打倒の兵を挙げた頃から京都の室町に幕府がおかれたころまでの時期の様子に関心をもち、進んで調べようとしている。

- 【思考・判断】 武士による政治が始まった頃の世の中の様子や、室町文化が今日の生活文化に直結する要素をもつことを考えることができる。
- 【技能・表現】 年表や文章資料、イラスト、写真などの資料を効果的に活用して、源平の戦いや鎌倉幕府の始まり、元との戦い、室町文化について調べ、調べたことをノートやレポートに工夫しながらまとめることができる。
- 【知識・理解】 武士による政治の始まりや、幕府が全国的に力をもってきたこと、武士や民衆の中から室町文化が生まれたことがわかる。

## 5 指導計画（全7時間）

- 第1次 武士が登場する …1時間
- 第2次 源氏と平氏が戦う …1時間
- 第3次 領地を守り、武芸にはげむ …1時間
- 第4次 頼朝が東国を治める …1時間（本時）
- 第5次 元の大軍がせめてくる …1時間
- 第6次 武士が新しい文化を生み出す …1時間

## 6 本時の学習

### （1）目標

#### ○ 教科の目標

- ・ ご恩と奉公の関係図などをもとにして、頼朝が武士たちをどのように従えていったのかを考えることができる。

#### ○ 日本語の目標

- ・ 武士と幕府の関係の気持ちを日本語で書くことができる。
- ・ 「幕府だったら～だと思えます。武士だったら～だと思えます。」と表現することができる。（AUカード H-2「条件を付けて推測できる。」）

### （2）準備物

教師：ワークシート・国語辞典

児童：必要に応じて中和電子辞書（児童が持参している。）

### （3）授業展開（別室個別授業）

	学習活動	主なやりとり	支援
つかむ	1 どの時代について勉強しているのかつかむ。	T：誰が、何時代を開いたかおぼえていますか。 C：源頼朝が鎌倉幕府を開きました。	・ 前時のノートや教科書（p38～p39）を見て、確認させる。
	2 学習課題を確認する。	T：今日は、頼朝と武士について学びます。めあてをノートに書きましょう。 C：はい。	・ 板書をノートに書かせ、声に出して読ませる。

## 頼朝と武士の関係を知ろう

深める	<p>3 学習内容を理解する。 教科書に出てきた漢字・未習の言葉などを質問する。 板書しながら、まとめていく。</p> <p>4 幕府と武士の主従関係をつかむ。 ワークシートにそれぞれの立場の吹き出しを記入する。</p>	<p>T: 教科書 p 42~43 を読みましょう。</p> <p>C: (教科書を音読する。)</p> <p>T: 読めない漢字やわからない言葉はありますか。</p> <p>C: 奉公が読めません。</p> <p>C: 東国はどういう意味ですか。</p> <p>T: 頼朝の気持ちを考えましょう。 (AU-カード H-2)</p> <p>C: 頼朝だったら、武士にお礼がしたいと思います。</p> <p>T: 武士の気持ちも考えましょう。</p> <p>C: 武士だったら、頼朝のために戦って、もっと自分の土地を広げたいと思います。</p> <p>C: もっと戦いたいと思ったと思います。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• p 42・p 43 を一緒に読む。読めない漢字には振り仮名を書かせる。</li> <li>• 教科書に知らない言葉・わからない言葉に下線を引かせる</li> <li>• 国語辞典で分からない言葉を引かせる。</li> <li>• 板書し、視覚的にわかりやすくさせる。</li> </ul>
まとめる	<p>5 板書をもとに、学んだことを振り返る</p> <p>人物カードに要約して記入する。</p>	<p>T: 今日勉強したことを教えてください。 (AU-カード D-6)</p> <p>C: まず、幕府がよく戦った武士にご恩として領地をあげます。次に、武士達は幕府のために戦います。これを繰り返します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 板書やワークシートをもとに順序よく今日学んだことを話させる。</li> <li>• 「まず」「つぎに」「最後に」などのカードを自由にに使わせて説明させる。</li> <li>• 教科書や資料から源頼朝についての情報を集めさせ、要約させて記入させる。</li> </ul>

### 【評価】

- 頼朝と武士の関係について理解し、わかったことや自分の意見、感想を日本語で説明することができたか。

## 7 成果と課題

### (1) 成果

- ・ ワークシートの吹き出しに武士と幕府の気持ちやセリフを記入することで、それぞれの立場を理解し封建社会の仕組みを理解することができた。
- ・ 「ご恩と奉公」の関係の図を板書したことで、武士と幕府の関係が視覚的にわかりやすくなっていた。
- ・ 児童が学んだことを自らまとめて発言することで、児童の本時のつまずきがわかりやすかった。また、順序よく説明しようと努力している姿も見られ、日本語の力を養うこともできた。

### (2) 課題

- ・ 授業最後の人物カードに記入をするときに時間が短かった。教科書や資料を読み、学んだことを再確認しながら記入するには、もっと時間が必要だから、宿題にしてもよかった。
- ・ 児童自ら資料を読み取って、考えさせる時間をとり、児童の発言をさらに増やした授業展開が必要であった。
- ・ 教科書の音読は、一度に全て読みきってしまうのではなく、児童が順を追って理解するために、内容を区切りながら読み進めていくことが必要であった。

